

西南風

西南算数伝説

なるか!?

令和6年10月22日 第24号
文責 田中 宏和

大風呂敷を広げたわけでもなく、大言壮語でもありません。本気です。職員に確認したわけでもなく、校長としての一存で後期始業式にこれをぶち上げたのです。児童にも、職員にも後期の目標として示したつもりです。

「西南算数伝説」

算数が苦手という実態をふまえて、今年度の本校研究テーマを算数に焦点化していることは、以前もお伝えした通りです。夏休み明け集会でも、これからみんなで頑張ることは算数であることを伝えました。その時から、もう一度後期始業式で子どもたちの脳裏に焼き付けたいと思っていました。方法は昨年通りの手作り巨大垂れ幕と決めていました。しかし、そこに書く言葉がなかなか出てきません。脳裏に焼き付けるための強烈な言葉です。秋休み中ずっと考えていました。なかなか浮かんできませんでした。ついには巨大垂れ幕をセットしないといけません。直感で思うままに書きました。

「西南算数伝説」

始業式では六年生の林崎れんさんのアシストと全校児童のカウントダウンで開幕しました。特にテストをしたわけではありませんが、今回もうまいこと一発で勢いよく垂れ幕が開きました。

「西南算数伝説」

今回も開幕直後は、大いに沸き立ちました。

バババツと、巨大な垂れ幕が勢いよく開く様への歓喜もあれば、そこに表れた言葉に驚愕する算数嫌いの悲鳴だったかもしれない。間髪入れず、全校児童で大声で読み上げました。

「西南算数伝説」

私の気のせい、低学年の高い声ばかりが響き、高学年の声に元気がなかったような気がしました。いや、気のせいなどではなくおそらく、いや間違いなく高学年、特に六年生の声が小さかったのです。左の今年度の市学力・学習状況調査（市学調）、全国学力・学習状況調査（全学調）の結果を見てください。四月に市学調、五月に全学調と二連続の学力調査結果で、いずれも算数に苦しんだ六年生の姿が浮かんできます。

「西南算数伝説」

のために、子どもたちに伝えたことは三つです。二つは、夏休み明けの集会でも言いました。

- 一、人と比べないこと
- 一、自分ができるところから取り組むこと
- 一、毎日の「わかった」を大切にすること

全国学力・学習状況調査は、毎年新聞や雑誌等で都道府県ごとのランキングが出たりします。しかし、そもそもこうした学力調査は、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることが目的であり、他と比べても指導の役には立ちません。同様に、子どもたちにとっても成績を人と比べる意味はありません。全国や県の平均も自分の成績を相対的に見るための基準の一つでしかありません。上記は、全国平均との比較で示していますが、正答率の数値だけ出してもそれがどれくらいなのかわからないからです。

本校では、同一集団の経年変化を最も大事にしていきます。今年の自分は、昨年の自分より伸びたかどうかです。そのための「できることから」と、日々の小さな「わかった」の積み重ねです。こういう少しずつの歩を積み重ねていくことが、

「西南算数伝説」

なるかのポイントです。きつと、できる！

R6全国学力・学習状況調査結果(6年)

国語	知識・技能	全国平均をやや下回る
	思考・判断・表現	全国平均を下回る
算数	知識・技能	全国平均を下回る
	思考・判断・表現	全国平均を下回る

R6合志市学力・学習状況調査(2~6年)

国語	2年	全国平均並み
	3年	全国平均を下回る
	4年	全国平均並み
	5年	全国平均を上回る
	6年	全国平均並み
算数	2年	全国平均並み
	3年	全国平均並み
	4年	全国平均をやや下回る
	5年	全国平均をやや上回る
	6年	全国平均を下回る